Damage situations in Mashiki Town by the Kumamoto earthquake 2016

Mashiki Town

Damage situation in Mashiki Town by the Kumamoto earthquake 2016 ①



O Outline of Mashiki Town

Masuki Town is located at center-north of Kumamoto prefecture, and is adjacent to the east of Kumamoto City.

There are transportation bases such as "Aso Kumamoto Airport" and "Masuki Kumamoto Airport IC". Mashiki Town has developed as a city where rural and city harmonize.

[Population, Households]

Population	34, 605
Households	13, 450
Male	16, 617
Female	17, 988

(Feb. 2016)

Main Public Facilities

- · 5 elementary, 2 junior high schools
- · General gymnasium
- · Health and Welfare Center
- · Exchange Information Center
- · Gender equality center, etc.



〇地震の概要

[Foreshock]

Date&Time: 14 April (Thu.) 21:26

Magnitude: 6.5

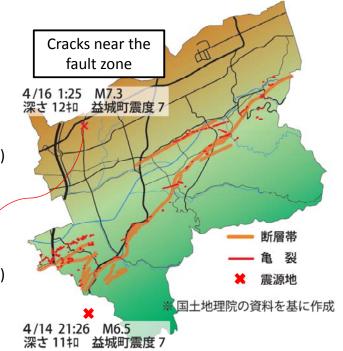
JMA Intensity: 7(Highest) (at Mashiki Town)

[Main shock]

Date&Time: 16 April (Sat.) 01:25

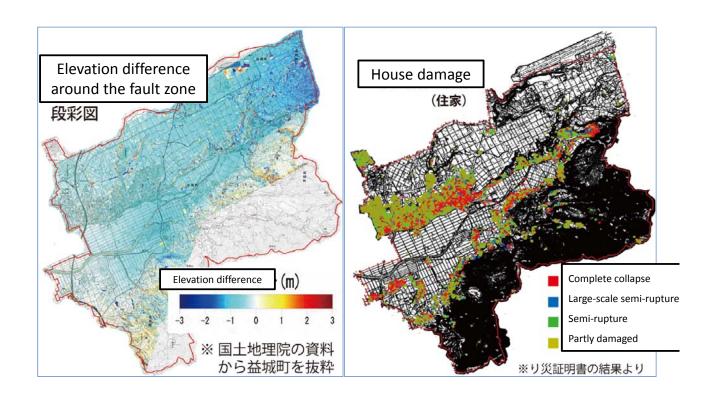
Magnitude: 7.3

JMA Intensity: 7(Highest) (at Mashiki Town)



[Situations of Aftershock] (14 Apr. – 12 Dec. 2016)
More than JMA intensity 1: 4,190 times
More than JMA intensity 4: 140 times

Damage situation in Mashiki Town by the Kumamoto earthquake 2016



4

ODamage situation (as of 13 Dec. 2016)

[Human damage]

2110111011011002					
Direct death	20				
Earthquake related death	7				
Serious injury	122				
Slight injury	31				

[Building Damage]

Complete	2, 768棟
Semi	3, 033棟
Partly	4, 405棟
計	10, 206棟

[Evacuee]

Total evacuee	368,876
Total Cvacucc	300,070

maximum evacuees at morning 17 Apr.

10 shelters	16,050
-------------	--------

Severe damaged area



Damage situation in Mashiki Town by the Kumamoto earthquake 2016

[Before/After]



[Around town hall]







平成28年熊本地震による益城町の被害状況 ⑥



Western part of Town hall



Road damage belong Akitsu river



Fallen rocks



Damaged houses

Rehabilitation and reconstruction situation in Mashiki Town by the Kumamoto earthquake 2016 ①

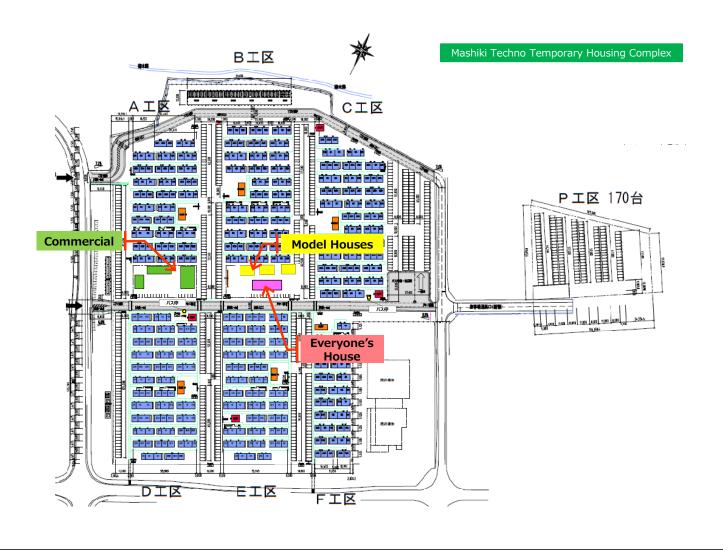
O Emergency temporary housing

1,562 temporary houses in 18 housing complex were constructed, and affected residents started to move from 14 June 2016.

Also, "Everyone's House" in the temporary housing complex was built to prevent isolation of tenants and to create community.







Meeting facilities as "Everyone's House"

Kumamoto Prefectural government conducted the project to provide "everyone's house" in case of huge disaster such as the Great East Japan Earthquake and the Kumamoto Wide Area Flood as part of the "Kumamoto Art Police Project" from 1988. Utilizing experiences of "Everyone's House" project, a wooden "Everyone' 能本広域 House" was built as a meeting facility to minimize the pain of those who wer seriously damaged by the Kumamoto earthquake and feel a little comfort.

Also, in the temporary housing complex of more than 80 houses, multiple "Everyone's House" are built, and one of them is planned with listening opinions from residents.

● Cooking corner

大きなキッチンがあり、菜園でとれた野菜を調理して、テラスでみんなで食べることもできます。

地域支え合いセンタ

Meeting area

Meeting area (66m2)

● 菜園ひとやすみコーナ



東日本 大震災

宮城野区のみんなの家(宮城県仙台市) 撮影:伊藤トオル

H24

大水害

Rehabilitation and reconstruction situation in Mashiki Town by the Kumamoto earthquake 2016 (2)

O Demolition and removal by public funds of collapsed houses Started damaged house dismantling and removal by the town from 7 July judged as semi-rupture or more by the affiliation certificate. about 3,000 houses will be removed by March 2018.



- The time required for dismantling is about 2 weeks to 1 month per building
- Scheduled to work simultaneously at maximum 100 places

Rehabilitation and reconstruction situation in Mashiki Town by the Kumamoto earthquake 2016 ③

O Formulation of basic policy of reconstruction from the Kumamoto earthquake

Mashiki Town has formulated the basic attitude of future town planning and direction of initiatives. "Basic policy of reconstruction from the Kumamoto earthquake" at 6 June 2016.

【Contents of Basic Policy of reconstruction】

- 1 Basic philosophy of reconstruction
- 2 Basic idea in formulating reconstruction plan
- 3 Direction of reconstruction plan
- 4 Organizational structure pertaining to reconstruction plan
- ➤ Based on this basic policy, "Masaki Town Reconstruction Plan" will be formulated within the year as a comprehensive plan for reconstruction.

益城町復興計画骨子(概要)

復興計画骨子の策定にあたって

益城町は、一連の地震活動の中で震度7を2度経験するという観測史上例のない大災害に見舞われ、「かけがえのない噂い命」、「安らぎのあるくらし」、そして「美しいふるさとの姿」が奪われました。

現在でも多くの被災者が、不安な生活を余儀なくされている中、町では、生活再建の第一歩として、道路や上下水道等のインフラの復旧や応急仮設住宅の整備等を 進めております。

また、本年7月6日に益城町震災復興基本方針を策定し、住民意見交換会や住民アンケート等により、住民の皆様のご意見もお伺いしながら、復旧から復興へと将来を見据えた取組を進めているところです。

今後、本町では、第5次益城町総合計画を基本としながら、復興に向けた総合的な計画として「益城町復興計画」(以下「復興計画」といいます。)を策定していきます。

今回、復興計画を策定していくにあたっての方向性として、本町が目指す将来像や 復興に向けた取組等を「益城町復興計画骨子」として整理しました。

Basic Policy of reconstruction

Rehabilitation of residents' life

被災者が安心して快適に暮らせる住環境を一日も早く実現するために、住宅再建 への支援や災害公営住宅の建設を行う等、安全・安心な住環境づくりを進めます。 あわせて、教育環境及び保健・医療・福祉の体制の確保・充実、被災者の心のケ ア、その他被災者の暮らしに関連する機能の充実に向けた取組等も進めます。

Promotion of disaster-resilient town development

今回の震災の教訓を踏まえ、単に震災前の町の姿を復旧するだけではなく、「住民の命を守る、災害に強いまち」の実現に向けて、新しい視点でまちづくりの姿を描き、防災上必要なインフラ整備等を進めます。

Reconstruction of industry and economy

基大な被害を受けた農業、商業、工業等の各産業が、早期に復旧し、雇用を維持するとともに活力を取り戻すための取組を進めます。

また、熊本都市圏東部の交通の要衝に位置するという地域特性を活かし、産業拠点のまちづくりを推進します。

復興計画策定にあたっての基本的な考え方

○ 復興計画と総合計画との関係

復興計画は、「第5次益城町総合計画」を基本としながら、今回の震災によって 新たに発生した課題や改めて見直すべき課題を踏まえ、本町が魅力的で活力があ り発展するまちに向かっていくための計画とします。

第5次益城町総合計画 今回新たに扱う部分 今回、総合計画を見直す部分

Promotion system of reconstruction

復興の推進にあたっては、「自助・共助・公助」の概念を原則として掲げます。



この概念に基づき、それぞれが役割を担いながら、本町の復興を推進していきます。

住民 : 復興の主体として、周囲の人や地域とともに、復興に向けた取組を進める

町・議会:復興に向けた取組を主導しつつ、住民の取組を積極的に支援する 国・県 :住民や町の取組に対して、広い範囲からの支援を行う

大学:現地での支援、研究を行いながら、住民と町とをつなぐ役割を果たす

民間 : それぞれの経験や知見・ノウハウを活かして、住民や町の取組を支援する

復興将来像と取組の方向性

本町は、第5次総合計画において、「水とみどり豊かで人安らぐ『夢・創造』のまち」というまちの将来像を掲げています。しかし、震災により、「安らぎのあるくらし」や「美しいふるさとの姿」が失われてしまっている状態です。

これから、町の姿を取り戻し、総合計画で掲げたまちの将来像を実現しつつ、さらに魅力あるまちへと発展していてことで、将来の世代にとっても住み続けたいまちへ復興するという想いをこめ、「住み続けたいまち、次世代に継承したいまち」という復興将来像を掲げます。

また、復興計画骨子では、復興将来像の実現に向けて、各分野の現状を踏まえ、それぞれに達成すべき目標を設定した上で、**各分野で進めていくべき取組の方向性**を整理しました。

【復興将来像】 住み続けたいまち、次世代に継承したいまち

くらし復興						復興まちづくり		産業復興	
	生活環境の整備	1	保健・医療・福祉の充実	Г	教育・文化の向上	Г	新たな都市基盤の整備	Г	産業の振興
a. b.	安全・安心な住環境を早期に実現するために、住宅の応急修理や災害公営住宅の整備、宅地復旧の支援等、恒久的な住まいの確保を支援するハード面・ソフト面双方において、地震や台風といっ	a. b.	すべての被災者が早期に 生活を再建できるよう、それぞれの事情やニーズを 踏まえた支援を行う 高齢者、障がい者、子育て 世帯が元気に安心して生 活できるよう、支援する	a. b.	未来の益城町を担う世代 を育てるために、学校教育 を充実させる 住民の誰もがいきいきと生 活できるよう、生涯学習を 充実させる 住民が益城町に誇り・愛着 を感じるよう、自然・文化・	a. b. c. d.	安全・安心な住宅エリアの 整備を進める 幹線道路ネットワークの整 備を進める 都市拠点や地域拠点の整 備を進める 筋災機能としての公園の 整備を進める	a. b. c.	震災前の産業の状態を見り戻す活動を緊急的に進める 産業の発展に向けて必要な準備、取組を進める 産業としての魅力、活力を 顕在化させる取組を進める る
C.	た自然災害への対策を進める 誰にもやさしく、安全・安心な交通環境を整備する			d.	歴史・スポーツを学び、楽 しむ環境を充実させる 防災意識の高揚を図り、 次の世代へと伝承していく	e. f.	集落部のコミュニティ拠点 の整備を進める 市街地と集落部を結ぶ道 路の整備を進める	d.	町の埋もれた魅力を発掘 し、その魅力を町内外に 信することにより、交流促 進・産業振興につなげる

な交通環境を整備する 次の世代へと伝承していく 路の整備を進める 進・産業振興につなげる 協働のまちづくり a. 地域住民組織を支援し、互いに支え合う新たな公共サービスの形を構築する b. 町内外関係機関との連携を深め、町の体制の強化を図る c. 協働のまちづくりの第一歩として、地域防災力を高める 積極的な情報の発信 a. 住民一人ひとりに、丁寧に、確実に情報を届ける b. 震災の記憶を風化させないために、全国へ益城町の情報を発信し続ける 行財政基盤の確保 a. 住民ニーズに呼応した様々な支援や制度を活用することで、きめ細やかなサービスを実現する b. 庁内及び関係機関との情報共有、連携を図る c. 発災後の対応を検証し、教訓を今後の体制づくりに活かす d. 財政破綻を引き起こさないよう、復興事業に優先順位をつけ、着実に実施していく